

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第19回会議録 (要点筆記)

1. 開催日時 令和4年3月17日(木)～令和4年3月28日(月)
(委員への意見の提出依頼から、意見書提出日まで)
2. 開催場所 書面開催
3. 参加者 池上甲一(座長) 井上良作(副座長) 田中勝久 小北利裕 高枝敏治 中本真人
小西功 稲葉房子 中世古知子 中村和美 藤原大輔 浅井伊知人
4. 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし(書面開催のため)
5. 議題 (1) 傍示地区「人・農地プラン」について
(2) 宮方地区「人・農地プラン」について
(3) 久保地区「人・農地プラン」について

6. 審議内容

(1) 傍示地区「人・農地プラン」について

- ・1筆あたりの面積が狭いことを念頭におく経営体育成策が必要だろう。
- ・中心経営体への農地の集約に適さない農地について公共交通機関を利用する等の対策を徹底したうえで、市民による活用を図るとあるが、他の地区も同じで遠くて困難である。
- ・将来夏いちごの栽培を検討中。(生駒市内でも涼しい地域のため。)
- ・SDGsや国産需要を見込んで大豆の栽培もありではと考えている。
- ・農地を借りているが、鳥獣被害に頭を悩ませている。近隣で畑を借りていた方もいなくなったりしているが、やはり収穫する予定の作物が被害にあうとモチベーションを失ってしまう。今後一般の市民の方々も農業が手軽にできるように進めていきたいが(農業塾や体験イベントを実施)、被害にあうことがないように対策強化が必要と思う。

(2) 宮方地区「人・農地プラン」について

- ・未回答者の面積が4ha近くあるので(地区面積の4割以上)、この部分の意向をおさえる努力が大事だろう。
- ・農地と民家が多く、施設栽培より露地栽培のほうがよいのではないかと思うため、獣害対策の調整を行いながら田・露地野菜で耕作を検討したい。

(3) 久保地区「人・農地プラン」について

- ・未回答者の農地が10ha弱あるので、この部分の意向をおさえる努力が大事だろう。
- ・水稻はもちろん生鮮野菜等の生産は、既存農業者の高齢化で増々難しくなっているのが現状である。「中心経営体への農地の集約化」もまず高齢者の気持ちが高齢者にならなければならぬところ。今回の協議経過を見て、具体的に動いていただき、また認定農業者等の引受け意向を知りありがたいと思った。
- ・現在の農地から近いので一番利用しやすいが、北東の民家より離れたあたりは可能なら果樹や動物を飼えたらと思う。中心部など日当たりのよいところはいちご栽培、それ以外はシイタケなどの施設栽培ができればと考えている。

【3地区への共通意見】

- ・70歳以上の耕作者の農地が多く、この先ますます耕作の期待ができないので、担い手に任せたい。
- ・新規就農者が増えていることは先が明るく見えるが、既存農業者との交流、協力、他の事も含め早急に実行していかなければならない課題がある。
- ・縦の繋がりより横の繋がりの方が大事ではないか。しっかり成果の出る事柄を実践していくことが急務。
- ・すべての地区について言える事は農業の衰退はどんどん進んでいく。(高齢者は年々多くなり、担い手は少なく追いつかない。)
- ・その地域だけの問題でない。広い意味で一致団結していかなければ。ここ数年の歯止め対策は良い結果がでているのか。しっかりした杭を打ち込んでいかなければならない。イノシシ問題につ

いても至急手を打たなければならない課題である。

- 獣害対策が今以上に必要と考えられます。
- 当初懇話会委員であった方が農業を職業にしてまず自分が実績をあげ、後に就農する人が続いてくれるようがんばりたいとおっしゃっていた言葉が今でも耳に残っています。
- 大学との協働事業を実施できないか検討してほしい。